

難民関連文献一覧

※ ここでは、日本語で執筆された文献を取り上げる。

2009年

【図書】

- 小泉康一「第一章 国家、国際基準と国際難民制度」『グローバリゼーションと強制移動』勁草書房
 古屋博子『アメリカのベトナム人——祖国との絆とベトナム政府の政策転換』明石書店
 堀芳枝「タイと子どもの人権——難民・移民・エスニック・マイノリティの子どもから考える」日本平和学会編『アジアにおける人権と平和（平和研究34）』早稲田大学出版部
 舛方周一郎『ブラジルにおける難民保護政策の形成——国際人権規範の国内受容と多元化する政策決定過程』上智大学イベロアメリカ研究所
 増谷英樹編『移民・難民・外国人労働者と多文化共生——日本とドイツ／歴史と現状』有志舎
 道場親信「『難民入植』と『開発難民』のあいだ——戦後開拓を考える」西川長夫・高橋秀寿編『グローバリゼーションと植民地主義』人文書院
 「第8章 難民の権利」渡部茂己編著『国際人権法』国際書院
 「日本の難民受け入れ政策の成果と課題」野山広・石井恵理子編『日本語教育の過去・現在・未来〈第1巻〉社会』凡人社

【雑誌】

- Masutani Yasushi「ブルキナファソの『金鉱村』へ——サヘルに生きる『気候難民』」『Courrier Japon』5巻8号（通号58号）、90～97頁
 秋本勝「ビルマ軍政下の人々——難民の声を聴く」『現代社会研究』12号、193～201頁
 岩崎雅美「アフガニスタン人の服飾と衣生活の変容——イラン・パキスタンにおける難民生活の状況から」奈良女子大学家政学会『家政学研究』55巻2号（通号110号）、75～85頁
 小田隆史「ミネソタ州ツインシティ都市圏における非政府・非営利セクターによる難民への職任斡旋支援」日本地理学会／日本地理学『地理学評論』82巻5号、422～441頁
 小野澤正喜「グローバル化とアメリカ合衆国におけるアジア系民族集団の展開——タイ系民族集団の事例研究」育英短期大学『育英短期大学研究紀要』26号、1～8頁
 片岡弘次「印・パ分離独立の難民に対する面接調査」大東文化大学『大東文化大学紀要〈人文科学〉』47号、101～120頁
 北村暁夫「イタリア農村と移民——南仏への移民と『亡命者』（〔日本農業史学会〕2008年度シンポジウム20世紀世界の農業と移動——移民・入植・難民）」日本農業史学会事務局『農業史研究』43号、3～13頁
 乾美紀「ミニマイノリティの高校進学と教育支援に関する研究——神奈川県を中心としたラオス定住難民を事例として」名古屋多文化共生研究会『多文化共生研究年報』6号、22～38頁
 小泉康一「彼らは移動によって難民となる——グローバル化のなかで加速する国際強制移動（特集：国境を越える人々と国家の関係）」国際交流基金『をちこち（遠近）』31号、39～43頁
 小泉康一「社会資本が社会排除か？——主にEUの難民政策の比較分析を中心に」大東文化大学『大東文化大学紀要〈社会科学〉』47号、1～48頁
 小瀧雅子「小学校日本語学級と交流活動の記録——難民クラスでの『生活ガイダンス』プログラム実践から」国際日本語普及協会『AJALT日本語研究誌』4号、76～91頁
 近藤麻理「紛争と難民」医学書院『看護教育』50巻6号（通号601号）、537～542頁
 材木和雄「クロアチアにおけるセルビア系難民の帰還の障害と住宅問題——『失われた公有住宅の居住権』の問題を中心に」広島大学大学院総合科学研究科『環境科学研究』4号、51～75頁
 渋谷敦志「ミャンマー・タイ国境難民キャンプのカレン人たち」朝日新聞社ジャーナリスト学校『ジャーナリズム』225号、111～114頁
 杉木明子「国際的難民保護の『負担分担』難民開発援助に対するドナーの動向——デンマークの事例から」神戸学院大学法学会『神戸学院法学』39巻1号、41～65頁
 陶山宣明「Canada's contemporary refugee policy questioned」帝京平成大学『帝京平成大学紀要』20巻2号、9～20頁
 高岡豊・浜中新吾「シリア人の国境を越える移動に関する意識と経験——世論調査の軽量分析から読み解く社会意識」アジア経済研究所研究支援部『現代の中東』47号、2～17頁
 高杉公人「難民支援とソーシャルワーク——エコロジカル・アプローチを用いた日本におけるソーシャルワーク実践に関する一考察（特集：外国人支援とソーシャルワーク）」相川書房『ソーシャルワーク研究』35巻3号（通号139号）、213～221頁
 立山良司「パレスチナ難民問題と中東和平プロセス」中東調査会『中東研究』10巻1号（通号504号）、111～118頁
 趙向華「EUにおける大量難民の一時的保護と負担分担——『一時的保護に関する指令』の法的評価を中心に」京都大学大学院人間・環境学研究科『人間・環境学』18号、93～105頁
 道家木綿子「難民申請者とのアートワーク」日本外来精神医療学会『外来精神医療』9巻1号、14～18頁
 墓田桂「グルジアにおける国内避難民問題——恒久的解決はいかにあるべきか」成蹊大学『成蹊大学一般研究報告』42号、1～28頁
 平田伊都子「ルボ アフリカ最後の植民地・西サハラ」岩波書店『世界』787号、278～285頁
 森恭子・櫻井美香「在日難民女性の生活実態と地域社会の関わり——在日ビルマ難民女性の聞き取り調査を通して」日本女子大学社会福祉学科『社会福祉』50号、67～81頁
 山神進「インドシナ難民の受け入れについて日本政府が取った政策、施策の変遷をめぐって」政策情報学会『政策情報学会誌』3巻1号、23～41

頁

山口覚「国家主権と難民認定——権限委譲後のスコットランドにおける庇護申請者の処遇」人文地理学会『人文地理』61巻2号（通号356号）、157～175頁

山崎達枝「私と災害看護——湾岸戦争難民キャンプの場で『看護』の意味を知る」ぎょうせい『現代のエスプリ』510号、79～86頁

山本リリアン光子「ブラジルの政治的庇護及び難民条約に基づく保護」神奈川大学大学院法学研究科『神奈川大学大学院法学研究論集』17号、51～101頁

渡辺有理子「開発途上国における図書館支援——ビルマ（ミャンマー）難民キャンプの事例から（特集：図書館をつくる）」日本図書館協会『現代の図書館』47巻2号（通号190号）、71～78頁

【その他】

日弁連人権行動宣言「外国人・難民・民族的少数者の権利の保障」

2010年

【図書】

Saburo Takizawa「Refugees and Victimology: Toward a more humane order」日本国際連合学会編『新たな地球規範と国連（国連研究11）』国際書院

ウォーレン・セント・ジョン／北田絵里子訳『フージーズ——難民の少年サッカーチームと小さな町の物語』英治出版

幼い難民を考える会『カンボジア——子どもたちとつくる未来』毎日新聞社

クラウス・プリックボイマー／渡辺一男訳『出口のない夢——アフリカ難民のオデュッセイア』新曜社

国境なき子どもたち『ぼくは12歳、路上で暮らしはじめたわけ。——私には何ができますか？その悲しみがなくなる日を夢見て』合同出版

小柳順一「第3章 民軍協力の生成と展開／第1節 イラク北部クルド人難民保護」『民軍協力（CIMIC）の戦略——米軍の日独占領からコンボの国際平和活動まで（ストラテジー選書12）』芙蓉書房出版

近藤敦・塩原良和・鈴木江理子『非正規滞在者と在留特別許可』日本評論社

斉藤真美子「第10章 アフガニスタンからのディアスポラ——パキスタンにおける難民二世の視点から——『外国』と『祖国』の狭間で」駒井洋

監修／首藤もと子編著『東南・南アジアのディアスポラ（叢書グローバル・ディアスポラ2）』明石書店

須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史——近世イングランドと外国人移民』昭和堂

宋芳綺『タイ・ビルマ国境の難民診療所——女医シンシア・マウンの物語』新泉社

滝澤三郎「第4章 国連が取り組む人権、環境、難民問題」山田満編著『新しい国際協力論』明石書店

陳天璽『忘れられた人々 日本の「無国籍」者』明石書店

筒井志保「第19 日本の難民政策」黒沢文貴編『戦争・平和・人権——長期的視座から問題の本質を見抜く眼』原書房

中山裕美「アフリカにおけるリージョナリゼーションの展開——難民問題を扱う制度的枠組みの変容」日本国際政治学会『グローバル化の中のアフリカ（国際政治159）』有斐閣

錦田愛子『ディアスポラのパレスチナ人——「故郷（ワタン）」とナショナル・アイデンティティ』有信堂高文社

錦田愛子・板垣雄三「第5章 パレスチナ難民の法的地位と選択権」ミーダーン（パレスチナ・対話のための広場）編『〈鏡〉としてのパレスチナ——ナクバから同時代を問う』現代企画室

日本ビジュアル・ジャーナリスト協会『「戦地」に生きる人々（集英社新書）』集英社

羽生勇作「第4章 人間の安全保障と政治力学——カザフスタンにおける難民保護の事例」大杉卓三・大谷順子編著『人間の安全保障と中央アジア（比較社会文化叢書18）』花書院

村井淳「第7章 難民・移民問題と人口移動」『現代国際政治と国際関係——世界の現在（いま）を考えるためのエッセンス』学陽書房

村瀬信也「第6章 難民」『地球的課題と法』放送大学教育振興会

八塩弘二『空しく消えたS・O・S——カンボジア難民の妻子殺害事件』東京図書出版会

山村淳平『難民への旅』現代企画室

森恭子監修／難民支援協会編『外国人をめぐる生活と医療』現代人文社所収の以下の論文

- ・石井宏明「難民支援——日本の現場を中心に」
- ・尾方欣也「医療機関からの報告」
- ・古藤吾郎「難民たちは、国民健康保険に入れるのか、入れないのか」
- ・櫻井美香「難民の生活支援とは——社会資源を中心に」
- ・藤田恭啓「ミャンマー・コミュニティへの健康支援——心身ともに健やかにすごしてもらうために」
- ・ミャンマー（ビルマ）難民女性「日本での生活を通じて——在日難民からの報告」
- ・森恭子「在日難民支援に向けて——医療、保健、福祉専門職の連携の必要性」
- ・森谷康文「難民のメンタルヘルス」

米川正子『世界最悪の紛争「コンゴ」（創成社新書）』創成社

渡邊彰悟・大橋毅・関聡介・児玉晃一編『日本における難民訴訟の発展と現在（伊藤和夫弁護士在職50周年祝賀論文集）』現代人文社所収の以下の論文

- ・阿部浩己「難民条約における迫害の相貌」
- ・新垣修「気候変動の影響による人間の移動——国際法からの一考察」
- ・池田純一「チャン・メイラン事件」

- ・児玉晃一「行政事件訴訟法改正後の収容執行停止——収容は『重大な損害』である」
- ・佐藤以久子「EUにおける難民の保護——現状と国際法上の課題」
- ・佐藤安信「ブイ・ムアン事件」
- ・下中奈美「本質的变化論」
- ・鈴木雅子「日本における信憑性評価の現状とその課題」
- ・住田昌弘「張振海事件」
- ・関聡介「越南事件——60日ルール」
- ・空野佳弘「パスポート論、平メンバー論、個別把握論、帰属された政治的意見、本国基準論」
- ・田島浩「庇護希望者・難民申請者が直面する諸問題」
- ・難波満「事実の立証に関する国際難民法の解釈適用のあり方に関する一考察——イギリスの難民認定実務における事実の立証をめぐる問題の検討を中心として」
- ・本間浩「内戦と難民該当性」
- ・渡邊彰悟「迫害の主体論」
- ・渡部典子「ジェンダーに関する迫害——女性からの難民申請を中心として」

【雑誌】

- 阿部吉雄「資料調査：上海のユダヤ人難民社会の医師」九州大学大学院言語文化研究院『言語文化論究』25号、169～174頁
- 阿部吉雄「上海のユダヤ人難民社会の医師医療」九州大学大学院言語文化研究院『言語科学』45号、85～95頁
- 浅香幸枝「日本の多文化共生政策決定過程——1990年『出入国管理及び難民認定法』改正施行以後から2009年改正まで」名古屋大学国際開発研究科国際コミュニケーション専攻『ククロス：国際コミュニケーション論集』7号、1～13頁
- 江崎智絵「中東和平におけるヨルダンにとってのパレスチナ難民問題（特集：パレスチナ和平プロセスの争点）」アジア経済研究所研究支援部『現代の中東』48号、52～61頁
- 林真由美「パレスチナ難民問題とイスラエル（特集：パレスチナ和平プロセスの争点）」同上、39～51頁
- 石井洋子「『苦難』をめぐる民族誌へ——ケニア国内避難民の経験に関する覚え書き」聖心女子大学『聖心女子大学論叢』114号、226～201頁
- 石川えり「多文化共生のとびら——新たに始まる難民の第三国定住と自治体の役割」自治体国際化協会『自治体国際化フォーラム』249号、22～24頁
- 宇田有三「迫害と排除のはざまに——バングラデシュのロヒンギャー難民」解放出版社『部落解放』629号、83～91頁
- 宇田有三「バングラデシュのロヒンギャー難民」同上、1～8頁
- 大江裕幸「行政判例研究（561・875）：出入国管理及び難民認定法に基づく退去強制令書発布処分が口頭審理請求権放棄手続の瑕疵を理由に取り消された事例【東京地方裁判所平成17.1.21判決】」第一法規『自治研究』86巻9号、135～152頁
- 小川昂子「難民認定申請者への生活保護費の打ち切り」解放出版社『人権キーワード2010（部落解放630）』、114～117頁
- 小川明「難民の『こころ』の支援を探る——福島で多文化間精神医学会」ジャパン・メディカル・ソサエティ『ジャパンメディカルソサエティ』161号、20～25頁
- 岡原祐祐「チャンス——イギリス行きを夢見る難民たちの旅」解放出版社『部落解放』627号、1-8頁、
- 片岡弘次「イン・パ分難独立時の難民小説」大東文化大学『大東文化大学紀要〈人文科学〉』48号、171～189頁
- 久保忠行「ソマリア人道復興支援」日本文化人類学会『文化人類学』75巻1号、146～159頁
- 小林誠「ポリネシア・ツバルの"環境難民"をめぐる覚書——海外移住に関する言説と現状の乖離（特集：人の移動と環境の変化、そして多文化共生へ）」大東文化大学環境創造学会『環境創造』13号、73～84頁
- 小林和香子「パレスチナ難民問題と解決の可能性の模索（特集：パレスチナ和平プロセスの争点）」アジア経済研究所研究支援部『現代の中東』48号、24～38頁
- 小泉康一「日本におけるインドシナ難民定住制度——強いられる難民受け入れと、その後の意味」大東文化大学『大東文化大学紀要（社会科学）』48号、37～104頁
- Cronin A. A., Shrestha D., Cornier N., 「文献抄録：難民キャンプにおける選択された健康と栄養の指標に関連した水供給および衛生設備の設置に関するレビュー——統合的なサービス提供の必要性」日本水道協会『水道協会雑誌』79巻9号、27～29頁
- 佐藤文明「入管法・入管特例法・住基法の改定」解放出版社『人権キーワード2010（部落解放630）』、118～121頁
- 佐藤文則「引き裂かれる難民家族」自然と人間社『自然と人間』2010年1月号、21～24頁
- 佐原彩子「帝国主義政策としての難民救済——ベトナム戦争終結において」日本アメリカ史学会『アメリカ史研究』33号、91～109頁
- 関聡介・池原毅和「外国人／難民への法律援助事業及び精神障がいのある人への法律援助事業の意義と展望（特集：日弁連法律援助事業の意義と展望）」日本弁護士連合会『自由と正義』61巻10号、31～36頁
- 田中聖子「アジア・アフリカ難民支援運動25年——高校生は地域とマリ共和国をつなぐ命のポンプ（特集：地域再生と教育）」旬報社『人間と教育』66号、44～49頁
- 中川潤一「特集 出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律の解説（第3回）」外国人登録事務協議会全国連合会『外国人登録』614号、23～36頁
- 中山裕美「アフリカにおけるリージョナリゼーションの展開——難民問題を扱う制度的枠組みの変容」国政政治学会『国際政治』159号、87～100頁
- 錦田愛子「ヨルダンにおけるガザ難民の法的地位——UNRWA登録、国籍取得と国民番号をめぐる諸問題」早稲田大学地域イスラーム研究機構『イスラーム地域研究ジャーナル』2号、13～24頁
- 法務省入国管理局参事官室「定住者告示の一部改正——第三国定住による難民の受け入れに関するパイロットケースの開始について」入管協会『国際人流』23巻3号、23～25頁

深山沙衣子「『第三国定住』って何？——難民流入にどうする日本」新潮社『新潮45』29巻11号、140～146頁

森住卓「アフガニスタン——帰還難民の苦悩」日本共産党中央委員会『前衛』857号、5～12頁

本岡大和「難民になれない庇護希望者——米加間の『安全な第三国』協定の影響」立命館大学『Core ethics』6号、425～435頁

山田美和「アンダマン海を南下するロヒンギャ——移民・難民・人身取引・無国籍」日本貿易振興機構アジア経済研究所研究支援部『アジア研ワールド・トレンド』16巻1号、53～57頁

山田美和「国境を越える人々、制度に潜む人々——法制度研究の彼方に（特集：温故知新 途上国研究のわすれもの・新しい架け橋）」日本貿易振興機構アジア経済研究所研究支援部『アジア研ワールド・トレンド』16巻8号、4～7頁

山田孝子「『移動』が生み出す地域主義——今日のチベット社会にみるマイクロ・リージョナリズムと汎チベット主義（特集：越境と地域空間——マイクロ・リージョンをとらえる）」京都大学地域研究統合情報センター『地域研究』10巻1号、33～51頁

山崎朋子「アジア女性交流史（昭和期篇23）：カンボジア〈若い難民〉に心を添わせて——いいぎり＝ゆきとその仲間たち（下）」岩波書店『世界』801号、312～323頁

リングホーファー・マンフレッド「ブータン難民の歴史・現状・未来」大阪産業大学産業研究所『平和学論集——長期的共同研究組織「第二期平和研究」4（産研叢書 32）